

南三陸土産にチョコどろろぞ

東日本大震災の被災地支援に取り組む下呂市のボランティア団体「K1(気持ちいいばい)プロジェクト」は近く、売り上げの半分を支援に充てるチョコレートを被災地の宮城県南三陸町で発売する。代表の鎌倉庄司さん(46)は「チョコを買って復興を応援してもらいたい」と、被災地にはこの先も支援が必要なることを知ってもらえたら」と話している。

半額を支援金に

下呂の団体、現地で発売



発売するチョコレートを持つ鎌倉さん

チョコは、「ちょこっとの積み重ねが大きな支援につながる」との思いから、「チョコポ」と名付けた。売り上げは、同プロジェクトが主に活動してきた南三陸町の復興支援に回される。

鎌倉さんらは5月から12月までの7回、岐阜や愛知、滋賀県などのボランティア計263人とともに南三陸町などに入り、がれき撤去などを手伝った。その中で、現地で長期ボランティアに携わっている人が金銭的に困っていることを知り、「お土産を売って資金の足しにしよう」と思いついた。

鎌倉さんは下呂市で印刷会社を経営しており、ボランティアの写真などが載せられたパッケージの作成を

担当。チョコの製造は、6月にボランティアに参加した美濃加茂市内の製菓会社の社長が請け負う予定を快諾した。

チョコは18個入り100

0円。南三陸町のボランティアセンターのほか、インターネット(<http://www.w.comsl.jp/contact/contact.html>)を通じて販売する。